

海辺の館

楽問のススめ

がくもん



～めざせ、やわらかアタマ～



共通点は何でしょう？

いきなりですが、クイズです。次の4つのことばに共通していることは何でしょう？

- ・経済
- ・演説
- ・討論
- ・著作権

「漢字2文字である」「読みが4文字」

いえいえ、見た目や読み方ではありません。

どれも、普段からニュースや本などで目にすることばですが、実はまだ、誕生してから150年と経っていないものばかりです。

約150年前というと、ちょうど日本の歴史が、開国に向けて大きく動き始めた時期です。急速な近代化・欧米化に伴い、日本には外国のことばがたくさん入ってきました。

もともと日本に存在しているものや考え方であれば、外国語をそのまま日本語に翻訳して万事解決ですが、これまで日本の生活文化になかったものを表すとなると、すんなり置きかえられる日本語がありません。こうした外国語を漢字で分かりやすく表すため、明治初期の人々は新しいことばを作りました。

さあ、答えは分かりましたか。実は、これらの4つのことばは、どれも一万円札の肖像画でおなじみの福沢諭吉がつくったといわれているものです。「経済」は「経世済民(世を治めて民を救う)」ということばがもとになっています。辞書で調べても難解な内容を、「経済」というたった2文字で表現してしまった諭吉の頭の柔らかさは、素晴らしいですね。

世を経めて民を済う

経済：エコノミー (economy)

物資や金銭の生産、流通、交換、消費などの諸活動の総体

演説：スピーチ (speech)

大勢の人の前で、自分の意見を述べること

討論：ディベート (debate)

ひとつの問題について、お互いに意見を述べ合うこと

著作権：コピーライト (copyright)

著作物を印刷・刊行することができる独占的・排他的な権利

本家「学問ノススめ」

タイトル「楽問のススめ」の元ネタは、この福沢諭吉が著した『学問ノススめ』です。「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らずと言えり……」という初編の冒頭部が有名です。

この本の中で諭吉は、ただ難しい字を知ること、古文を読み解くことなどが学問ではないと述べ、「読み・書き・そろばん」のような実用的なものを学ぶことが大切だと説いています。

もし現代に諭吉が生きていたとしたら、「ゼヒパソコンの使い方や学びなさい」と私たちにすすめたのではないのでしょうか。「ダブルクリック」だの、「ドラッグアンドドロップ」だのという、片仮名表記だらけの取扱説明書も、きつと分かりやすい日本語に書き換えてくれたことでしょう。

やわらかアタマにユニークな発想

諭吉に限らず、明治初期の人々は、なじみのない外国語に対して、分かりやすい日本語を編み